

令和7年3月10日(月曜日)

○議事日程

- 令和7年3月10日(月) 午前9時00分開議
- 日程第 1・議案第20号 令和7年度開成町一般会計予算について (質疑)
- 日程第 2・議案第21号 令和7年度開成町国民健康保険特別会計予算について (質疑)
- 日程第 3・議案第22号 令和7年度開成町介護保険事業特別会計予算について (質疑)
- 日程第 4・議案第23号 令和7年度開成町給食事業特別会計予算について (質疑)
- 日程第 5・議案第24号 令和7年度開成町後期高齢者医療事業特別会計予算について (質疑)
- 日程第 6・議案第25号 令和7年度開成町駅前通り線周辺地区土地区画整理事業特別会計予算について (質疑)
- 日程第 7・議案第26号 令和7年度開成町水道事業会計予算について (質疑)
- 日程第 8・議案第27号 令和7年度開成町下水道事業会計予算について (質疑)

○本日の会議に付議した事件

議事日程に同じ

○出席議員(12名)

1番 清水友紀	2番 吉田敏郎
3番 石田史行	4番 井上慎司
5番 武井正広	6番 星野洋一
7番 今西景子	8番 寺野圭一郎
9番 佐々木昇	10番 山下純夫
11番 前田せつよ	12番 山本研一

○説明のため出席した者

町長 山神 裕 副町長 石井 護
教育長 石塚 智久 参事(兼) 岩本 浩二
企画政策課長

参事 (兼) 総務課長	山口 哲也	参事 (兼) 地域防災課長	小玉 直樹
参事 (兼) 福祉介護課長	中戸川 進二	税務窓口課長	奥津 亮一
環境課長	高橋 清一	保険健康課長	土井 直美
こども課長	田中美津子	都市計画課長	柏木 克紀
都市整備課長	井上 昇	産業振興課長	中村 睦
会計管理者 (兼) 出納室長	石井 直樹	参事 (兼) 学校教育課長	田中 栄之
生涯学習課長	田代 孝和		
財務課 財政企画兼財政調整班長	永松 功次		

○議会事務局

事務局 長	遠藤 直紀 書	記	佐藤 久子
-------	---------	---	-------

○議長（山本研一）

皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は12名です。定足数に達しておりますので、これより令和7年開成町議会3月定例会議第4日目の会議を開きます。

午前9時00分 開議

○議長（山本研一）

3月定例会議の議事日程につきましては、去る3月4日に開催しました。本3月定例会議第1日目において決定し、お手元に送付の議事日程表のとおりですが、3月5日、議員から追加の議案、教育民生常任委員会から追加の報告書が提出されました。

本定例会議の追加議事日程案につきましては、3月6日に開催されました、議会運営委員会において決定されたものです。

お手元に送付のとおり、発議第2号及び常任委員会所管事務調査の報告を日程に追加し、追加日程第1、第2として議題とすることで御異議ございませんか。

（「異議なし」という者多数）

○議長（山本研一）

御異議なしと認め、本3月定例会議の追加議事日程につきましては、追加議事日程表のとおりと決定いたしました。

それでは早速本日の日程に入ります。

日程第1 議案第20号 令和7年度開成町一般会計予算についてから、日程第8 議案第27号 令和7年度開成町下水道事業会計予算についてまでを一括議案としております。

本議題につきましては、説明が終了しておりますので、本日は質疑を行います。ここで質疑は、令和7年度当初予算提案趣旨説明総括質疑に係る内容について行います。

ファイル番号は18、令和7年度開成町当初予算提案趣旨説明、資料の該当箇所を明示した上で質問をお願いします。なお、ここでの質疑はあくまでも予算提案趣旨説明であり、予算額等の詳細な内容は、以降の具体的な予算の中でお願いいたします。

それでは、質疑をどうぞ。

11番、前田議員。

○11番（前田せつよ）

11番、前田せつよでございます。それでは当初予算提案趣旨説明の中から総括的な視点で質問をさせていただきます。町長の提案趣旨説明は、7つの基本目標のうち3つを重点項目に掲げて説明がなされたわけでございます。その中の6ページ、下段、6、利便性が高く、快適な都市空間が整ったまちというところで、これも重点項目と3つのうちの1つの項目でございます。この中に、駅前通り線周辺地区土地地区画整理事業は、造成工事の着工に向け、詳細設計を行いますと、1行、1文御

説明をされたわけでございます。この事業につきましては、権利者、地権者さんの方からは、遅々として進まずという御意見がある一方で、先日来の本会議での町側のお話によりますと、着々と進んでいるというような印象を受けるわけでございます。ここで提案趣旨の説明とはいえ、この1言だけで町長の予算の提案趣旨説明というにはあまりにも簡略化しているように思うところでございます。

この町の一大事業でございます、駅前通り線の周辺地区土地区画整理事業、本年度の造成工事の着工に向けた詳細設計を行いますと、このことに対しての町長の思い、またこの令和7年度の向かう意気込み等々も含めた形で、いま一重説明を求めらるものでございます。御答弁お願いいたします。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

おはようございます。御質問にお答えします。まず、駅前通り線周辺土地区画整理事業につきましては、令和5年に事業認可されたということで、そのような、例えば、そのまま表現をお借りしますと、遅々としてという場合は、それこそ昭和50年代に遡ってということの起点にすれば、確かにそのようにお感じになられる方もいらっしゃるかとは思いますが、その事業認可を受けて以降は、その当時策定したスケジュールにおおむね沿って進んでいるものと認識しております。いずれにしても、予算額、あとは今後の開成町の将来を左右する重要な事業でございますので、確かに趣旨においては、割けるスペースも文字数というのも限られておりますので、このぐらいにとどまってしまうかもしれませんが、かつ具体的に令和7年度に、例えば目に見えてどこまで事業が進捗するかという意味では御説明したとおり、仮換地がおおむね終了して設計という段階ということもありますので、この程度の表現とさせていただきますけれども、重要性は極めて高く、自分自身も当然ながら全ての会合に出席して、責任感を持って開成町のたゆまぬ発展のため、町民の皆さんの生活の質を押し上げて、幸福感を感じていただくために、しっかりと取り組んでまいります。

以上です。

○議長（山本研一）

11番、前田議員。

○11番（前田せつよ）

11番前田せつよでございます。今、町長の御答弁では、全ての会合に出席してと。その全ての会合というのがどのくらいの頻度で、どのようにまた今年度も持っていられるのか、思うところでございます。その点、1つ御質問するのと、あともう1点、土地区画整理法に基づきまして、土地区画整理審議会が、本年も、もう1月15日に第5回を開催されているわけでございます。この本年度、造成工事の着工に向けて土地区画整理審議会との関わり方、土地区画整理審議会の場合は、換地のことですか、様々審議会の内容については縛りがあるようではございますが、

やはり施行地域内の権利者の意見が集約されているという大切な審議会の方でございませう。この辺にも町長が先ほど来申していた会合にその会合の開催の前後等々も含めまして、その辺と関われるものなのかどうなのか、その辺先ほどおっしゃられた、本年度は全ての会合に出席するという含みの中でどのように捉えて考えていくものなのか御答弁願います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

まず。これまではおおむね地権者の方々の会合、種類は幾つかありますけどもという意味合いでそのような表現をさせていただきました。

またこれからのほうが事業認可を受けてからというの2年間と、これからという意味では、これからのほうがよほど長いので、今後もしっかりと、要は地権者をはじめそのような場に来てくださるような町民の皆さんの声に耳を傾けるといふ、そういう姿勢を表明するために、そのような表現でお伝えしたという趣旨でございます。

その他、先ほどおっしゃられた、現場における実態という意味合いにおきましては必要に応じて柏木課長から説明させていただければなと思ひます。

以上です。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

私のほうで若干補足をさせていただきたいと思ひます。訂正も含めてといひますか、先ほど町長の答弁がございましたけれども、もう少し正確に言ひますと、令和3年6月4日に設計の概要の認可を県知事から受けて、令和3年6月10日に事業計画決定の公告をして、令和5年2月4日に第1回の土地区画整理審議会を開いたと、こういう経緯でございます。

それと、前田議員の御質問のとおり、土地区画整理審議会は土地区画整理法によってやるべきことといふか、非常に限られているといふか、それほど多くなくて、それとは別に町長のほうで答弁した会議等出席してといふのは、別にその説明会等を地権者を対象にしてやっています。それには参加しているという形で審議会は、最初のその委員の任命ですとか、そういった必要なときだけで、あとは審議会の自由を侵さないような状況の中で、行政がやっているという形で御了解いただければと思ひます。

○議長（山本研一）

11番、前田議員。

○11番（前田せつよ）

11番、前田せつよでございます。副町長、町長から御答弁いただきました。都市計画整理審議会のメンバーの方は今9名だといふことで承知しております。その

方が軸となって、町側から影響を受けるような状況になく、しっかりと議論等々した上で、その方々の御意見も伺いながらしっかりとやっていくというような御答弁であったと思います。

以前、町長は、このようにこの駅前通り線のこの事業を展開する中で、町職員等々がそれぞれ地権者、権利者さんのところに行って、かなりその説得に苦慮する部分があれば、自分はそのままで出向いて行って、その辺のしっかりしたフォローをするよというような御意見をいただいたと記憶してございます。

今回、造成工事の着工というような大きなものが見えてきた令和7年度でございます。その点、現場に直接関わる職員をさらにバックアップする最後のとりでとして、町長として今後も行動していただけるということの思いについて、最後1点確認させていただきたいと存じます。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

もちろんです。こういったビッグプロジェクトで職員の皆さんがその経験によって、得るものというものもあると思いますし、役割分担というのも当然あると思いますけれども、本音では当初からでもできることは何でも行動として示したいとは考えておりますけれども、申し上げたように、役割分担としかるべきタイミング、しかるべきシチュエーションでは当然のこと、実際の行動で、直接お会いするなり、直接御説明するなり、積極的にやっていきたいという思いであります。

○議長（山本研一）

ほかに。

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

1番、清水です。今の同僚議員のお話の6ページ、利便性が高く、快適な都市空間が整ったまちについての様々な河川ですとか、道路が挙げられる中の駅前通り線周辺地区土地区画整理事業は、造成工事の着工に向け、詳細設計を行います。

また、一番下の行、南部第3地区では、権利者の意向を踏まえたまちづくりの基本想定を策定しますとあります。

今、町長が御答弁された50年近く前の都市計画におおむね沿って進めてきているという話ですけれども、なぜその計画が必要で、ほかの道路とどうつながるものとして設計されたのか、これだけ年数がたった後、分からない町民も大変多いです。今後は資材や人件費の高騰で事業費も恐らく増大し、町債も積み上がるその事業がなぜ今必要なのか。そして南部第3地区というのはどこの場所のことで、ここはどう変わるのかなど、今、町長がビッグプロジェクトとおっしゃったとおり、これは財政規模としても非常に大きい、一番大きいと言える事業です。分かりやすい情報提供の場を町民に向けて設けて、開かれた中で事業を推進するのがALLかいせいだと思っておりますが、そちらについてお考えを伺います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

昭和50年代と申し上げたのは、駅前通り線土地区画整理事業が都市計画決定されたのが昭和54年という意味合いで、そこを起点にすると、遅々として進まずとお感じの方がいらっしゃるのも考えられるという文脈でお伝えしました。

想定どおりと申し上げたのは、すみません。先ほど平成5年と申し上げてしまったのですが、平成3年に実際の事業認可を県から受けてからは、おおむねスケジュールどおりに進んでおると意味でお伝えしました。

今、御質問につきましては、例えば、南部第3地区のことをおっしゃられているとすれば、私は2年前に、町長の座を引き継ぎまして、今、行政運営のかじ取りを担っているわけですが、都市計画というものの自体が、その当時といいますか、しっかりとしたプロセスを経て、決まった町民への約束であるということがまず1つあると思います。それでなぜそれを引き継いで推進するかという意味においては、開成町のたゆまぬ発展のために必要だと思うからです。もちろんその中身とか規模とか、物価高騰を受けた予算というのは、これからもいろいろな議論をしながら詰めていく必要が当然あるとは思っておりますけれども、お答えいたしますとそういうこととなります。

以上です。

○議長（山本研一）

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

御質問が分かりにくかったでしょうか。私は分かりやすい情報提供の場を町民に向けて設けて、開かれた中で事業を推進するのがALLかいせいだと思うのですがということでお考えを伺いました。

やはりこれは地権者さんの個人的な資産によるものというデリケートな話以前の、今、町が何に対して重きを置いて動いているのか。それはどのような影響があるのか。町長がどういう思いで行っているのか。それは町民の多くがあまり知らないことだと私は多くの方々の意見を聞いて認識していますので、そのような集会を実際に開く機会はどうかということまで質問しております。

あまりほかの自治体の話をするのは個人的に好みませんが、隣の町も、駅前の開発を目指してまして、町内外の人が自由に参加できる説明会というのを既に3回行っています。そのような機会を設けることについてのお考えを伺います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

もちろん考え方からしますと町民の皆さんの声をちゃんと聞きながらという考えであります。例えば隣の町の事例で言いますと、2030年の町開きというのです

かね、完成というのですか、を目指しているという段階で、開成町におきましても、今後詳細設計とかを進める中で、スケジュール的にはそういった町民の皆さんの声を、形はいろいろ考えられますけれども、聞く機会と聞く場ということは設けていく予定であります。

以上です。

○議長（山本研一）

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

この予算編成の基本方針には、企業が持つ資源やノウハウを活用するとありました。

今、趣旨説明の一番下の行で、南部第3地区では権利者の意向を踏まえたまちづくりの基本構想を策定しますとありまして、基本構想が本年7年度に策定されるものと思われませんが、その後、例えば、以前答弁にありました将来像については地権者の意向を踏まえ、民間企業や町民の皆様との知恵を寄せ合い、協議を進めながら描いていくと。これはつい半年前に御答弁されたことであって、地権者の意向を踏まえ、描くではなく、その間に民間企業や町民の皆様との知恵を寄せ合い、協議を進めるということをおっしゃっていただきました。そちらを受けて、こちら駅前通り線周辺地区土地区画整理事業や南部第3地区の件について、町長も本腰を入れて民間企業から見解を募っている状況なのか伺います。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

町長の前に私から大変申し訳ないです。若干その質問の内容が把握し切れないのですが、少し整理をさせていただきますと、駅前通り線の周辺地区の土地区画整理事業は、先ほどから申しています、昭和54年に、簡単に言ってしまうと、北は、こういう表現が正しいかどうか、マクドナルドという店から、ずっと小田原市の境に近いところの62.4ヘクタールを都市計画決定なりして、土地区画整理事業をします。その当時、調整区域であったのですが、保留制度というのはなかったですから、要は土地区画整理事業をやりますという宣言を言ってみればするだけで、即市街化区域にされたと。

それから粛々と土地区画整理事業を進めてきて、まだ60%にいくかどうかぐらいの進捗率なのですが、その中の駅前通り線の土地区画整理事業は一部であって、さらに駅前通り線自体も路線として、重要な都市施設という意味で、都市計画決定をしていると。

だからかぶっているわけなのですが、そこは都市計画決定していますので、公共団体施行の土地区画整理事業ということで、既に開成駅の周辺の部分は20、ちょっと数字はしっかりしていないのですが、25ヘクタール前後の区画整理をまず最初に行って、順次進めてきたと。

それと第3地区というのは、これはそれよりさらに南側の小田原市の境の部分まで、これについては第7回の線引き見直しについて、一応保留フレームという形で承認というか、県の認可を取っていきまして、7年度以降、第8回の線引き見直しになるのですが、それまでにその事業が成立していない場合は、もう一回その7回の承認とは保証されるわけではないので、スタートからやり直すという中で、それで今、第8回の線引き見直しに向けて、承認に向けて作業していますよという形の中です。

そこは調整区域でして、この辺の答弁もデリケートな部分があるのですけれども、基本的には土地区画整理事業の事業形態は組合施行の土地区画整理事業を想定をしてございます。組合が設立されるまでは、町の規則等によって事業支援をしていきます。という中で7年度は基本構想なりを作っていきますと。それができれば、測量とかやるのですが、繰り返しになりますけど、土地区画整理組合が成立するまでは、町が支援という形で行っていくと。組合が成立しますと、これは法律に基づく法人になりますから、組合のほう为主体的にといいますか、責任を持って事業を進めるという形でございます。

ただ、それには支援と同時に規則等によって、事業費の1割ですとかは補助金を出しますという規定もございますけども、それは町が補助金として組合のほうに出していくという形になります。

ですから先ほど民間が云々というのは、どちらかというと駅前通り線の意味合いかと思いますが、ここにはそういう記載は当然ないので、その辺のところがちよっと混同されているのかなという形で、私のほうで答弁させていただきました。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

民間企業、もしくは民間事業者さんに対して、これらの事業についてお話ししているかということに関しましては、こと駅前通り線とか、まして、まだ正式な認可等を受けていない南部第3と限定せず、例えば、開成町、空き家もあれば、空いている土地もあり、空いている工場とかもあったりする中で、開成町での御商売等は御興味ありますとか、開成町というのはこのような町なのですよという話は、折に触れて、いわゆる柔らかなサウンディングと言ったレベルだと思いますけれども、そういったお話はたくさんしています。

ただ、具体的に、いつ、どこで、誰が、どの規模で、という話はとてもまだできるような段階には至っておりませんので、その程度にはなりますけども、しております。

以上です。

○議長（山本研一）

4回目になりますけども、1番と2番の質問が、確認の質問でしたので、許可します。

1 番、清水議員。

○1 番（清水友紀）

ありがとうございます。1 番、清水です。まず、副町長に対して、混合はしておりません。おっしゃられたことは全て理解した上で、今まで一般質問を重ねてまいりました。

こちらの事業が、どれだけ町債を既に出しているか。非常に財政規模に大きな事業であって、先ほど同僚議員が1 行の記載ではと言いながらも、やはり予算を見ますと、非常に大きな事業であることが分かります。

実際に説明会は始まっていて、動いている事業ですけれども、例えば南部第3 地区、駅前通り線でも、大手の企業の方が、南部第3 地区に関しては、住居を中心に考えているようだが、違う発想が必要ではという社員の御意見もありますので、やはりこのような大きな事業に関しては、まだ早いという意識ではなくて、既にお金は大きな規模で動いているのですから、非常に本腰を入れてと、先ほど申しましたが相談する機会は多く設けたほうがいいと思います。

そして、副町長がマクドナルドということに触れられたので、そちらについても伺いますけれども、町の中心である、位置するところの、マクドナルドさんが今工事が始まっています。そこが駅前通り線がなぜ都市計画になったかというのは、その中家下島線につながって、より効果的になる駅前通り線であります。そこが今、あのような大きな工事が始まってしまうと、中家下島線は一体いつの話になるのかというところですが、そちらをしっかりと、その地主さん、またお店の方と協議を行って、そして町の意向、今後、町は駅前通り線をまずしますけれども、こういった都市計画があって、ここは中家下島線をつなげ、都市計画を実現する必要があるというところはしっかりと町としてお話しされたのでしょうか。

○議長（山本研一）

都市計画課長。

○都市計画課長（柏木克紀）

それではただいまの御質問にお答えをさせていただきたいと思います。中家下島線の線上の中に、今回、マクドナルド建設予定地として建設されておりますが、建築確認をする場合においては、中家下島線があることを踏まえまして、建物に関しては中家下島線には当てないとか、いろいろな協議をしていただいた上で、今回の建築確認は許可がされているというところになってございます。ですので、中家下島線の線にかかっているところに、仮にですけれども、今後お家を建てられたり、何かを建てられたりするときは、必ず開成町と協議をした上で、建築確認等を出されることが必要となってきますので、中家下島線を無視して、建物を建てたりすることはないということになっております。

ですので、今回、マクドナルドに関しましては、仮に中家下島線の建設があったとしても、建物等が当たったり、営業が停止したりすることのないように計画をしていただいて、建築をしていただいております。

以上です。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

すみません。あと1点、南部第3地区の部分として、大手民間企業さんが描いているのとちょっと違ったような意見もあったというような御質問でしたので、これについてはしっかりと調査をさせていただきたいと思います。

○議長（山本研一）

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

10番、山下純夫です。ページ数2ページになります。第2センテンスのところ、歳出では、というところからその2行目の選択と集中によって、という表記がございます。当然ながら税金というのは、富の再分配の側面がありますので、また予算限られていますので、選択と集中、必要だと思うのですが、3ページに、被保険者は減少傾向でというような、意思とは関係なく増減する部分も、この説明の中に数字として入っていると理解をしております。ですので、町としてというか、町長として、取捨選択のどこに意思入れをして、厚くして、取捨の捨てるということあれですが、あえて意思入れをして、抑えたところはどこであるのか、予算全体について御答弁いただければと思います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

とても難しい質問です。なぜならば、繰り返し申し上げますとおり、扶助費を中心とする増加により、経常収支比率の最終的には出していませんけれども、上昇といいますか、自由に使えるお金の額といいますか、が年々減ってくるという中で、その中で選択と集中、もちろんそういう考え方は当然重視してはいるのですが、集中するにも限度があるという感覚が非常に強くありますので、結果的に、今回3つ、未来を担うこどもを育むまちと人とつながりをつくる安全・安心なまちと、あとは利便性が高く、快適な都市空間が整ったまちという辺りに重きを置いたという意識ではあります。

以上です。

○議長（山本研一）

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

重きを置いたところは、比較的この文章を見ても分かるのですが、あえて抑えたところ、意思を持って抑えたところ、これはこの後の項目別のやり取りについての参考にもなると思いますので、あえて聞いているのですが、限度がある中で、金額そのものの桁の場合もありますでしょうし、比率として抑えているというよう

なところもあると思います。ですので、その辺りつまびらかにとは言いませんけども、大体こういうところは少し意思を持って伸びを抑えたというようなところがあれば、御開示いただきたいと思います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

抑えたほうという意味ですね。抑えたほうという意味では、全般的に抑制ぎみと言いましょうか、殊更この部分を今年は諦めてくれというようなものは、特にはなかったと考えております。

逆にこの限られた中で、集中のほうです。集中といいましようか、選択したほうという意味では、私としては結果的に産後ヘルパー派遣事業ということになりましたけども、いわゆる出産前後にある程度こだわった支援策というものを、あとはこれは昨年来ずっと申し上げておりましたけども、いわゆる預かり機能、ここでは未就学児になりますけれども、幼稚園のほうで拡充をしていただけることになったという辺りと、あとは防災という意味も含めまして、体育館への空調設備、金額的にもこれは非常に大きなものになっておりますけども、あと英語も、ALTと、ほかにも計画はあったのですけども、そういう意味では、一部例えば英語に関して、もっと力を入れようと思っているところで、やむなく断念したようなところはありますけれども、概略を申し上げますとそのようなところになります。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

町長答弁の後で大変恐縮ですが、若干予算の査定の部分にも及ぶかなと思ひまして答弁いたしますけども、基本的に予算査定につきましては、一義的にといいましか、私のほうで査定をさせていただいて、最終的には町長が総括的に査定をすると、大まかに言えば、そういう形になりますが、大変御質問の内容は分かるのですけど、非常にお答えしにくいというか、仕組みとすれば、所管の各党から、これこれこういう事業、例えば新しくこうしたいですとか、既存の事業も、もう少しこうしたいとかという形の中で、予算的にどうなのかと。それはいろいろございます。費用対効果ですとか、そういったものを含めて、どれだけ効果があるのかとか、そういった形でありますけども、ただそれは、今この場でこれこれこういう事業が出てきたのだけでも、それは予算的にはつけませんでしたというような御回答は、ちょっとしかねるという形で御理解いただきたいなど。

御質問で、こういった事業はどうだったと聞かれれば、お答えになると思うのですが、そこは御理解いただきたいということと、あと御質問、議員おっしゃられるとおり、個別に、この後、細かい詳細な質疑になっていくと思いますので、そちらのほうで御質問いただければと思います。

以上です。

○議長（山本研一）

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

副町長にもお察しいただいたとおり、町長からは、殊さら抑えたところはないという御答弁をいただいたのですが、今後の各項目のところ、この伸びを抑えるために、こちらの予算を削るべきではなかったのではないかと思うところで、がくんと落ちているところがあったりするので、そこが町長の御意思であるということなのか、各担当課のほうで積み上げてきたものなのか、それによって、今後の質問の在り方も変わると思いましたので、今のような質問をさせていただきました。

改めて確認しますが、町長があえてこの辺りの項目を押さえてくれと言ったものはないという確認でよろしいでしょうか。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

ちょっとがくんというのが、どの程度かにもよるのですけれども、例えば、今年度比較的大きな事業があったのがなくなったことによって、減っているみたいなのはあると思うのですが、事業として何か削ったとか、大きく削ったというものはないという認識であります。

以上です。

○議長（山本研一）

5番、武井議員。

○5番（武井正広）

5番、武井です。今の同僚議員の質問を少し質問の仕方を少し変えさせていただきたいと思うのですが、来年度この4月から始まる第六次総合計画の中の持続可能な行政運営の中に限られた財源と人材の中で、効率的かつ実効性のある行政運営を推進するために、積極的な財源の確保や事業の取捨選択、業務の効率化など、持続可能な行政運営に向けてさらなる基盤強化を図ることが求められていますとあります。

予算編成、今回の編成方針でも、スクラップアンドビルドは示されていますが、令和7年度予算について、この事業の取捨選択というのは、町長としてある程度織り込まれていると考えられているのかどうかということをお伺いします。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

ある程度織り込まれているか、先ほどのお答えとも一部重なりますけれども、大きく何か削った、断念した。例えば課に対しては我慢してもらったようなものはなかったと思っています。強いて言いますと、本当はもっと具体的には予算を投入して、力を入れたいけれども、様々な財政健全化であったり、あとは職員のキャパシティ

一とか、そういったところからもっと大きくやりたいところを、そうではなくしたとかはあります。

選択と集中、取捨選択は、結果としては全てが本意ではないところもありますけども、織り込まれているとは認識しています。

○議長（山本研一）

5番、武井議員。

○5番（武井正広）

5番、武井です。分かりました。ある程度は織り込まれているという中で、詳細については、もちろんこれからの各事業のところで質問していきたいと思いますが、1つ1つが、単純なコスト削減だけになっては当然意味がないことだと思いますが、その辺りについては町長としてはどうお考えで、そういったことはなかったと考えてよろしいですか。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

常々、最小のコストで最大の効果をと、地方自治法第2条の話はさせていただいていますので、表面的に数字を削ることが目的ではなくて、投じる予算、もしくはそこに関わる人工というのですか、ヒューマンリソースに対して最大の効果を上げられるようにという意識は常に思って、また副町長査定においてもそういった意識を持って査定してもらったと思っています。要は、これだけの予算を投じて目的は何かとか、成果として、何をどこまでを目指しているのかというところを全部の事業全て細かいところでは、なかなか話す時間は、相当の時間を要しておりますけども、限界はありますけども、そういった話をする中で、では来年度の目的がここであれば、予算はこれぐらいというところで、実際、また多少削ったとかということはあると思いますけれども、一番大事なものは、最小のコストで最大の効果を上げるためにという考え方に沿って説明させてもらっているとは考えています。

○議長（山本研一）

3番、石田議員。

3番、石田史行でございます。教育長にちょっと伺いたいのですけれども、ページは4ページになります。未来を担うこどもを育むまちの中の2段落前のところになります。

コミュニティスクールの活動を一層推進するために、各学校、地域、家庭間の連絡調整を図るスクールコーディネーターを小中学校に新規配置しますということで新しい取組になります。

教育長として、新しい取組に対する狙いといいますか、どういった成果を期待しているのか、御説明いただきたいと思っております。

○議長（山本研一）

教育長。

○教育長（石塚智久）

それではただいまの御質問についてお答えしたいと思います。

開成町では、コミュニティスクール、小中学校、幼小中学校が、それぞれのコミュニティスクールになってから、かなりの時間がたっております。非常に歴史が積み重なっております。その中で地域との交流、関わり、例えばゲストティーチャー、地域の方たち、企業の方を学校に呼んで、授業に参加してもらい、教師と一緒に授業を行ってもらうなど、そういった取組や、あと子どもたちが地域へ出て行って、地域の学習をしたりということで、様々な交流がされております。その交流が、今までは、担当の教員であったり、あとは教員の個々のつながり、または教頭先生、校長先生、園長先生あたりのお知り合いとか、そういったいわゆる個人的な人脈を通して、ゲストティーチャー等を学校に取り入れていったりすることが多かったのですが、それをきちんと地域と学校のハブとなってもらって、その仲介役といえますか、それぞれ地域と学校を結びつける担当の方をしっかりと組織的に、組織の中に位置づけようというのが、このスクールコーディネーターという担当になります。その方をきちんと設定して、設置することによって、今まで以上に、そういった地域との交流が盛んになり、また個々の教員の負担が減るとということが期待できますので、さらなるそういった地域とか、学校とのつながりが深まり、そしてそのパイプが太くなっていくことを大いに期待しております。

以上です。

○議長（山本研一）

3番、石田議員。

○3番（石田史行）

スクールコーディネーターの新規配置ということで、新たな取組につきまして教育長から思いを確認させていただきましてありがとうございます。

コミュニティスクールですけども、いろいろな意見があるかもしれませんが、私は、非常にこの県西地域でも大変進んでいる。県内でも進んでいると思っております。このコミュニティスクールについては大変高く評価をしておるところでございます。

一方で、やはり実際にコミュニティスクールに参加したメンバー、経験したメンバーから聞いたところによると、何かその会議をやっても、言い方があれですけども、形ばかりだったとか、形式的だったのではないとか、そういった意見も伺っておりますので、こういうスクールコーディネーターを配置することによって、よりこのコミュニティスクールが進化するというか、深まっていく。そういうことを私は期待しておりますが、教育長はどのように考えておられますでしょうか。

○議長（山本研一）

教育長。

○教育長（石塚智久）

それではただいまの御質問についてお答えしたいと思います。

コミュニティスクールが、ちょっと形骸化というか、そういったことになっているという御意見もありますけども、そういったことを打開するためにもこのスクールコーディネーターを設置した意味がございます。このスクールコーディネーターは、必ずコミュニティスクールの委員のメンバーになっていただくということで、既にコミュニティスクールの委員の方にスクールコーディネーターになっていただくという学校もありますし、新たにスクールコーディネーターを設置した学校については、その方を必ずコミュニティスクールの委員のメンバーの中に含むということを設置の条件にしておりますので、今、議員が申されましたようなことの改善につながっていくものと、これも期待しております。

○議長（山本研一）

3番、石田議員。

○3番（石田史行）

大いに期待したいと思っております。取組を注視していきたいと思っております。

最後、確認的な質問なので、参事の御答弁でも結構なのですが、ちなみにこのスクールコーディネーターの方、どういった方を配置していく予定にされているのか、分かっている範囲で教えていただきたいということと、このコミュニティスクールの人の中に、このスクールコーディネーターを配置するという取組は、これは県内でも珍しい取組なのかどうかを、お示しをいただきたいと思っております。

○議長（山本研一）

参事兼学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（田中栄之）

それでは事務的なお話も含めてですので、私からお話をしたいと思います。

実はコーディネーターという名前は現在ついていないのですが、かなりそれに近い動きをしていただいている方が、各学校には既に存在をしてございますので、こういった方にしっかりとこういうコーディネーターという役割を、こちらからもお願いをして、相応の謝金も払う中で、より一層動きやすくしていただくことと併せて消耗品等を購入する予算をつけてございますので、そういったものが手に入れやすくなるということで、今やっていることは、もっと機能的に動けるのかなというのが1点。

あとはやはり地域に精通している方を探していくことが大事でして、学校の先生方はやはり異動してまいりますから必ずしも地元の方を知っているわけではありませんから、その仲立をする方がいるというのは非常にこれからのいい効果があるのかなと思っております。

近隣でということになりますと、一番近いのは隣の市です。某市になりますけれども、そちらでは既に導入されていて、非常に上手に活用されて、それまでやってきたことがより1つランクアップしているという話もありますから、来年から始める事業ですので、最初から物すごい大きな効果ということではなくて地道に積み上げてまいって、将来的に令和7年度導入してよかったなというお話になるようにし

てまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（山本研一）

7番、今西議員。

○7番（今西景子）

7番、今西です。5ページお願いいたします。5ページの新たな取組として、図では図書に親しむ機会を創出し、読書習慣を身につけてもらうため、ちょっと飛ばしますが、図書室での貸出時に場所を持ち帰るためのライブラリーバッグを未就学児に配布しますとなっております。これはまた、開成町が教育に対して新しいことをしてくれたなというのが、もう目に見えまして、確かに本を借りるとたくさん持って歩くのも大変ですし、もしバッグを配っていただければ、そのバッグを持っているお友達を見て、自分も借りようと触発されて、どんどん図書に触れる機会が多くなって、すごく素晴らしい取組だと思うのですが、もう一度、ライブラリーバッグの目的を説明していただけたらと思います。

○議長（山本研一）

生涯学習課長。

○生涯学習課長（田代孝和）

ただいまの議員の御質問にお答えいたします。ライブラリーバッグについては、開成町として初の取組ではあるのですが、近隣、すみません。先進自治体では、お子様の図書室での登録者数を増やすだとか、その先にある読書率の向上、こういったところで、本の持ち帰りバッグをかわいいイラストだとかを入れて導入して取り組んでいるという事例が多々ございます。

その中で当町においても、昨年度実施したアンケートでも、読書率が下がっているというような傾向もありますので、全国に比べたらまだ高いのですが、こういった傾向を早めに上向きに上げていきたいということで、このライブラリーバッグ、お子さんが喜んで本の持ち帰りをする。つまりそのまま図書室に足を向けていただくというような環境づくりをしていきたいという事業となっております。

以上です。

○議長（山本研一）

7番、今西議員。

○7番（今西景子）

金額等は後でお聞きするのですが、多分低コストで、そんなに予算をかけずに、かなり効果のある取組かなと思って、大変わくわく私もしているところなのですが、子どもが未就学児となっております、お子様の幼稚園、保育園にも通っていない、様々な事情で通っていない、どこにも属してない、通園していないお子さんもいますので、全部の全てのお子さんに平等に配っていただきたいと思うのですが、配布方法をもし今お聞かせ願えるようでしたら、お願いいたします。

○議長（山本研一）

生涯学習課長。

○生涯学習課長（田代孝和）

ただいまの御質問にお答えいたします。まずは図書室に利用登録をするというところが今回の事業の肝になりますので、対象としてはあまり小さ過ぎるお子さんでも、ものがよく分からないという形になってしまいますので、幼稚園でいう、年少、年中、年長、この学年を対象にという形、自分で本を持ち歩けるというようなお子さんを対象に、あと町内在住の方、町の事業でございますので、町内在住ということで限らせていただいて配布をしていきたい。もう既に登録している方もいらっしゃいますので、そこに新規の上積みを持ってというようなところで考えてございます。

以上です。

○議長（山本研一）

9番、佐々木議員。

○9番（佐々木 昇）

9番、佐々木昇です。1ページ下段、ちょっと先ほど来、ちょっと出ていますけれども、7つの基本目標のうち来年度重点項目として3つ、未来を担うこどもを育むまち、人のつながりでつくる安全・安心なまち、利便性が高く快適な都市空間が整ったまち、ということですが、この重点項目にこの3つを編成した、重点項目されたことについて、町の考えをちょっとお聞かせください。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

お答えします。本音では、7個全部トップページのヘッドラインに掲げ、実際掲げているわけですが、予算編成においても、そこまでの大きな差というのはこの7つの分野間ではありません。

これは1つは、いろいろな町民の皆さんにお示しする際、メディアに取り扱っていただく際の分かりやすさみたいなので、その差はあまり大きくはないですが、この3つに重点を置いているという意味合いと、あとは利便性の快適な都市空間に関しましては、やはり予算額的に一番大きなものを計上していますので、それが例えば、土地の取得費であったり、作業量であったり、要するに人工等々から考えた場合に、ほかといろいろな比較の仕方はあるかと思うんですけども、これは1つ外せないというところはあったかとは思いますが、未来を担うこどもにしても、安全・安心にしても、ほかの健康にしても、環境にしても、重要性和産業にしても、重要性という意味では、そこまで大きくは変わらないと御理解をいただければと思います。

○議長（山本研一）

9番、佐々木議員。

○9番（佐々木 昇）

ありがとうございます。それでちょっと重点項目にされた項目の中でちょっと質

聞させていただきたいのですけれども、未来を担う子どもを育むまちというの関係でちょっとお聞きいたします。

予算編成時、園、学校の関係ということで、予算編成時には、園、学校と調整を行うと思いますけれども、本予算において、現場の声をどのように受け止めて、また留意して、この予算編成に臨まれたのか、またこの予算を編成されたのかお伺いします。

○議長（山本研一）

参事兼学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（田中栄之）

それではお答えをしたいと思います。これは例年の話ですけれども、まず学校現場から、次年度において、こういった予算が必要ですよと上がってまいります。それを教育長以下、私も含めて、まず1回、目を通させていただいて、おおむね半日から1日をかけて、園、学校ごとに、まず個別に査定といいたいでしょうか、内容を聞かせていただいて、その中でやはり1つ一番大事なことは、例えば設備、施設等にしても、目線とすれば、いわゆる園児、児童、生徒さんにとって一番その有効であるものが最優先ということで、もちろん先生方も、こういったものをほしいよというような御要望はあるのですけれども、まず目線とすれば、それぞれそこに通われるお子さんたちの目線でまず見させていただくと。

ただ、先ほど来、申し上げておりますとおり、それを全部積み上げると、とてもではありませんが、この枠に収まりませんので、それ以降は、正直その費用対効果であるとか、あとタイミング、個別にちょこちょこやるよりもまとめてやったほうがいいものについては少し先送って、どこかでまとめてやるとか、あるいはほかの方法で代替するものがないのかということを考えながら査定をやってまいったということで、おおむね各園、学校等から上がっている予算については、基本的には、その意思と意図をくんで計上させていただいているというところで御理解いただければと思います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

すみません。先ほどの答弁と一部補足させていただければと思います。

自分でもお答えして、先般来、例えば目玉であるとか、特徴であるとか、特に力を入れているところと言われたときに、ふっとすぐこれだということは正直出てこないところがあるのはなぜかと自分で自問自答もしながら、やはりこれはいわゆる社会課題、もしくは町民ニーズの多様化、複雑化とよく言っています。それが実際、予算編成とかにおいても、本当に多様化、複雑化が進んでいて、殊さらここにとか、増やすも減らすも、なのですけれども、ということが現実問題なかなかこうしにくい世の中、しにくい環境にあるということ強く感じておるというところでございます。今の御質問に対する質問と、すみません、ちょっと話がそれてしまった

というか、戻ってしまったのですけども、補足させていただきました。

○議長（山本研一）

9番、佐々木議員。

○9番（佐々木 昇）

分かりました。ちょっと飛んでしまうかもしれませんが、3つの重点項目の関係で、次に利便性が高く、快適な都市空間が整ったまちの関係で、お伺いするのですけども、いわゆるインフラ整備、この辺を考える中で、今、老朽化、災害対策というところも考えていかなければいけないと思いますけども、ここでちょっと老朽化対策について、この辺予算も先ほど町長の答弁ありました予算も多く、また、その中で限られた財源の中でということで、老朽化対策についてもうちちょっと考えながらの予算編成をしていかなければいけないかなと思いますけども、その辺どのような検討をされて、インフラ整備等の予算編成を考えられた予算なのか、お伺いします。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

御質問のとおり、やはり開成町は、あまり適切な表現ではないかもしれないですけど、それほど公共施設が、他の自治体に比べて物すごく多いとかという状況ではないというのが、まず1つと。とは言いつつも、いわゆる建て直し、改修すれば数十億ですとか、そういうかかる建物というのは幾つかあるわけなので、総じて、やはり御案内のとおり、公共施設の維持管理計画というか、全体計画とそれと6年度については、それぞれの個別計画というのですか、施設ごと、その中で基本的には延命化を図っていくと、できる限りです。その次にあるのは、やはり統廃合というか、集約できるものはあるのかという部分です。

また、7年度につきましては、全体の計画については、また見直しの年度になります。ただ、予算的には、策定費云々というのは取っておりませんので、職員の力によって、策定をしていこうという形でいきますので、そういう意味で言えば数字がついてないので、こういうところには記載が当然ないわけなのですけども、繰り返しになりますけど、7年度については、全体の公共施設の維持管理計画の見直しをしていくということで御理解いただければと思います。

○議長（山本研一）

佐々木議員、4回目ですけども、端的にお願いします。

○9番（佐々木 昇）

すみません、今、副町長から答弁いただいたのですけど、私はできれば道路、水道、上下水道、この辺りのインフラ整備の老朽化辺りの答弁をいただきましたのですけども、いかがでしょうか。

○議長（山本研一）

都市整備課長。

○都市整備課長（井上 昇）

それではお答えさせていただきます。橋梁につきましては、5年に一度の点検等を行っておりまして、修繕が必要な箇所についてはその箇所を絞って、計画的に補修をかけています。

また、佐々木議員も御存知のとおり、舗装の復旧に関しても、大分時間は遅れながらも、着実に進めているといったような形で、インフラも点検しながら、必要な箇所は補修を行っていくといったようなところでございます。

○議長（山本研一）

6番、星野議員。

○6番（星野洋一）

6番、星野洋一です。6ページの恵み豊かな環境を未来につなぐまちの中のちょうど真ん中のところ。ページ真ん中の足柄上地区1市5町が共同で利用する新しい可燃ごみ処理施設を整備するための協議を進めますとのことですが、これに関してはごみ施設、大変重要な施設だと思っています。これには広域1市5町という広域で行うということがありますので、大変難しいものではないかと考えております。特に耐久年数を迎える自治体もあれば、開成町のようにまだまだ稼働可能な処理施設を持っているところもあります。

その他、かなり処理施設から遠い場所にある自治体もございまして、様々違った状況の中の、これは協議になるだろうかと考えております。これに関して町長は、この協議をどのような点を考えながら取り組んでいくのか、協議に対して取り組んでいくのか、その点をお伺いいたします。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

まず広域連携の一番の目的は、スケールメリット、そこは費用対効果で、単体でやっているよりは、その効果を上げるということだと思います。その趣旨に沿って、この広域連携事業ということは推進していきたいと。

そして、各市町の事情というのは、星野議員がおっしゃるとおり様々違いますので、それは課長会議、副執行者会議、執行者会議、各レベルでそれぞれ市町の考え、主張とも言い換えられるかもしれないのですが、そういうのを重ねながら1つのものをみんなで作り上げていこうということだと思います。おっしゃったとおり、西部の施設に関しましては、南足柄市さんとあと東部よりは若干稼働年数は少ない、浅いということもありますし、地理的には今、予定されているところは、開成町は、ほかの町よりは近いであるとか、あとはパッカー車の経路が最終的に開成町を通る車が今までよりは当然ですけども増える。ここら辺も、開成町としての考え、主張ということはいしかりとさせていただきながら、進めてまいりたいと考えております。

○議長（山本研一）

6番、星野議員。

○6番（星野洋一）

6番、星野です。確かにそのとおりです。費用対効果、広域でやる場合について、そのほうが当然有利になってくるということで、広域でやるのは当然ですし、県からもそのような形で進めていくようにということになっていると思うのですが、ただ、今までの協議の状態を見ますと、なかなか私たちに、処理場の進行具合があまりにも情報が入ってこなかったとか、何かその辺のところ難しいようなことがちょっと感じたことがあります。基本的にこういう言い方ちょっと失礼なのですが、都合のいいような状態で、向こうの好きなような具合を作られてしまわないように、そういうところをやはり気をつけていながら、自分たちのしっかりと対等な状態でやっていただきたいなと思っています。

それにあと今、町長がおっしゃったように、開成町は本当に松田、中井、その他、大井ですね。これはごみ収集車が通る道になってしまいます。その辺のところ特に交通事故等、安全を図ってやはりやっていかないと、かなりいざとなったら何かあったときには大変な状態になってしまいますので、その辺のところもしっかり留意しながらやっていただきたいと思っていますけれども、その辺のところをもう一回確認していきたいと思いますが、どうでしょうか。よろしいでしょうか、考えていただけますでしょうか。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

当然のことですので、もちろん、開成町として言うべきは言って、議員のお言葉を借りるとすれば、都合のいいようにというようなことにならないように、しっかりと努めてまいります。

○議長（山本研一）

8番、寺野議員。

○8番（寺野圭一郎）

8番、寺野でございます。8ページ、将来都市像の実現に向けた行政経営、本文10行目になります。

年間を通じて、記念事業を実施するとともにさらなる人口増を目指し、町のイメージアップの取組を進めます、とございます。

ホームページの中に、開成町施行70周年記念の町民企画の事業を募集して今現在募集終了している状況なのですが、募集は何件ぐらいあったか、お示しいただきたいと思います。

○議長（山本研一）

参事兼企画政策課長。

○参事兼企画政策課長（岩本浩二）

お答えいたします。募集については、ちょっと詳しい数字、今、持っておりませ

んけれども、今5月5日に3件の応募があった方々にイベントをお願いしているというのが3件と、今年度中婦人会をはじめ、2件の募集事業を展開しているというような状況でございます。

○議長（山本研一）

8番、寺野議員。

○8番（寺野圭一郎）

ありがとうございます。ホームページの70周年特設ページ、あえて社名は申し上げませんが、宿泊事業の会社、電鉄事業の会社、またプロ野球事業の会社と比較をしておりますけれども、町には3大祭り、あじさいまつり、阿波おどりと花火大会とございますけれども、そこ冠だけつけたようなイベントになってしまっているのではないかと考えております。何かこれ以外にも、また年間通じて複数やっていくような計画はございますでしょうか。

○議長（山本研一）

参事兼企画政策課長。

○参事兼企画政策課長（岩本浩二）

お答えをいたします。これ以外にも様々な70周年契機に、企業の方々と連携して、積極的に事業展開を図っていきたくと考えておりますし、また70周年と節目で積極的に様々な連携を模索しているという状況ではございますが、この70周年をきっかけに、将来的に様々な事業が深まりを持って、さらにスケールアップした事業になるように、企業との連携のきっかけにもしていきたいと考えておりますし、こういう事業を通して、町内外の皆様にも事業を知っていただくことで町のPR、また永住・定住にもつながっていけばと考えておりますので、積極的に取り組んでまいりたいと考えてございます。

○議長（山本研一）

8番、寺野議員。

○8番（寺野圭一郎）

ありがとうございます。文章の中にも、ここちょっと別々で考えているのか、それともそれと関連して、人口増を意識して、イメージアップをとというような形で、私はそういう認識を取っております。やはり先々目指すところの着地点、例えば人口増であるとか、もちろん人口増に伴うものということになってしまうと、開成町に住んでいただくとか、そういったところもイメージとしてあるかと思っておりますけれども、その目標値、目指す着地点みたいなものがあれば最後にお話いただけませんか。イベントを通じてということですか。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

70周年で、ホームページに載っているような民間企業との連携事業とか、町民の皆さんに御提案いただいた企画の実践というのもあります。ちょっとイベントと

ということが最後に付け加えてしまったので、ちょっと用意していたとお答えと聞かれたことが違ってしまっているような気がしたのですけども、まず60周年のときにブランディングというものに力を入れました。「田舎モダン」、「あじさいちゃん」、その他もろもろデザインの見直し等で、10年立って70周年でも同様に、大きな見直しは行わないのですけども、いま一度注力していこうと。具体的にはポータルサイトを作ったり、これは移住・定住ではあるのですけども、一種のブランディングとしても、あとプロモーションブック、これも開成町のブランディングの活動の一環でもありますので、こちら辺は改めて力を、70周年を機に力を入れることによって、移住・定住にもつなげてまいりたいということになります。

3大祭りにつきましては、もちろん少しずつ、予算も少しですけども多ししながら、より中身の濃い、質の高いものを御提供していきたいなとは考えております。

以上です。

○議長（山本研一）

1回目、初めての質問のことを優先させていただきたいと思うのですけども、よろしいですか。

4番、井上議員。

○4番（井上慎司）

4番、井上慎司です。全般的な部分で将来都市像の実現に向けた7つの基本目標に向けて今回の予算が策定されているのですが、この予算の中で行われる全ての事業は、この7つの基本目標の達成というものに帰結していくものと思っております。その目標が達成された上で令和8年度に向けて、またつながっていく。そう捉えております。

そのような中で、今回の事業の中で、保育受入れ体制の拡充というもので、民間保育所への施設整備の補助で1億2,000万円ほど計上されております。この大きな目的というものが、令和8年度から始まる、こども誰でも通園制度に対応するためというところがあるかと思いますが、実際この補助を行うことで、令和8年度からのこども誰でも通園制度に対応できているのかなというところに大変ちょっと疑問を感じているところなのですが、ここでこれを対応させていくということで、ホームページにも掲げられておりますので、これはこの事業を達成することによって、こども誰でも通園制度、令和8年度からしっかり対応できていくという断言ができるのかどうか、まずそこをお伺いいたします。

○議長（山本研一）

こども課長。

○こども課長（田中美津子）

ただいまの井上議員の御質問にお答えいたします。今回、民間保育所の新設の施設整備に投入するということで、国の補助金も大いに活用し、3分の2、国、町が12分の1ということで、総額としては大変大きな金額で準備を進めます。来年度準備を進める施設整備、そして新認定給付という形で、システム関係全て新たな

ものになってまいりますので、その点も踏まえて令和7年度しっかりと準備を進めて、令和8年度からニーズがある家庭については、これを実施していくという準備を進めていくものでしっかりと対応するための計画を立てております。

○議長（山本研一）

4番、井上議員。

○4番（井上慎司）

現状では令和8年度からはしっかりと対応できるということで認識させていただいてよろしいですか。

○議長（山本研一）

こども課長。

○こども課長（田中美津子）

対応するつもりで、進めております。

○議長（山本研一）

関連、すみません、2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

2番、吉田です。6ページの6番、利便性が高く、快適な都市空間が整ったまち、これの中で足柄産業集積ビレッジ構想についてちょっとお伺いいたします。

こちらはいろいろ我々のほうに説明等はあるのですが、こちらやはり壺下竹村北地区のほうには、いろいろ今、進んでいるように伺いますけれども、あともう1つ開成町に関連する、竹松南宮台北地区のほう、こちらのほうについて、そちらの地籍者等々の方から少しでも早くしてほしいなという声があります。それについて、これから町としてどのような形で、ちょっと具体的なことは結構ですので、これからこういった形で、気持ちで、こういった考えをお持ちか、進めていくかをちょっとお聞きします。

○議長（山本研一）

都市計画課長。

○都市計画課長（柏木克紀）

それではただいまの御質問にお答えをさせていただきたいと思っております。

産業ビレッジに関しましては、地権者様の考える会を現在進めさせていただいてはございますが、全地権者さんに対しても説明をさせていただいて、早期に組合の設立ができるようにバックアップはしていきたいと思っております。

また、組合ができ上がった後は、早期に工事が着手されて、面的整備が行われ、そして企業が誘致できるように取組としましてはバックアップをしていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（山本研一）

2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

壺下竹松のほうはいいのですけれども、こちら開成町に関連する宮台のほうですね。こちらのほうにも一応検討会がたしか、考える会ができたのかと思いますけれども、そちらのほうで今進んでいることもあると思います。また、とにかく開成町にとっても、南足柄ももちろんですけれども、開成町にとってもよい方向に進んでいけばいいなということもお声を聞いておりますので、今、課長からそういう話がありましたけれども、本当にやはりなかなかコロナもあって、そういう協議会等々も開催されず、やはりどんどん遅れているという可能性もありますので、少しでも早くという声がどうしても出てきます。

今、課長がこれからしっかりと説明、またそういう誘致等々はしていくよということも聞きましたけれども、本当にこちらのほう、地権者のその他に少しでも改めて強い姿勢を持って、開成町としての意見をどんどん出していただけて進めていただきたいというのがありますけれどもいかがでしょう。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

しっかりとスピード感を持って取り組んでいきたいと思えます。

北部のほう、この4月から目に見えていろいろな進捗が図られるという予定になっておりますので、これは20年弱の課題となっておりますので、具体的な進捗に向けて、考える会、それから組合組成に向けて、できることをしっかりとやっていきたいと思えます。

○議長（山本研一）

2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

今、町長からそのようにしっかりとやっていることを聞きました。

壺下竹松北地区のほうは、もうしっかりと認可もいただいて取って、いろいろ進んでいるようですけれども、やはりこちらの宮台北地区のほうも、しっかりと早く認可が取れるようにし、そういう形で開成町として強い意志を持って進めていただきたいということをお願いしたいと思えます。

○議長（山本研一）

4番議員の関連で、10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

10番、山下純夫です。先ほどの関連4ページ5行目、6行目のところ、民間保育所の施設整備を補助するとありますが、この事業は働く保護者にとっても非常に有効な事業ですけれども、町長は以前から競争原理が働くことが必要だとかいうこともおっしゃってました。また、保護者の立場になると、多様な選択肢があるというところも肝要ではないかと思えます。さらにリスク分散という意味でも選択肢があるということは必要だと思えますが、この令和8年度の新制度始まることを前にしたタイミングで、先ほど開成町ビジネスでのサウンディングをやられているとい

う話ありましたが、この保育施設に関して外からの公募等々選択肢を増やすというところを行う考えがなかったのか伺います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

議員おっしゃったような考え方は持っております。実際、どうだったのかと申しますと、これはすみません。現場に任せているようなところもあります。あとは先般の一般質問でも一部お答えさせていただいたかと思うのですが、活動を私、もしくは企画サイドとかではしておりますが、結果的には令和8年度に向けた施設という意味では、これまでいろいろ御理解、御協力いただいている事業者さんをお願いするということになりました。

○議長（山本研一）

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

では確認いたします。そうした考えの下動いたけれども、結果として今回は新規参入をいただくという結果に至らなかったということではよろしいでしょうか。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

私が今動いているというのは、感覚的には、もう少し先、具体的にではいつなのだと言われるとあれなのですが、少なくとも令和8年に向けて間に合うような優しいことではないと思いますので、さらにその先を見据えた上で、保育、学童、いろいろな選択肢ができればいいなという考えでは活動しています。

○議長（山本研一）

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

1番、清水です。1ページ目ですけれども、一般会計では、次年度82億4,000万円という過去最大規模の開成町の予算です。さらに歳入の根幹である税収も、総額33億7,015万7,000円と、個人、法人共に増という見込みをされていらっしゃいます。このことは行政の拡大ですとか、町の成長という観点からすれば大変誇らしいことだと思っております。

ここで税収の全歳入に占める割合は40.9%と示されています。歳入における自主財源である税収の確保というのは、まちづくりを進める上での命題とも言えます。

しかし、全歳入に占める税収の割合を見てもみると、年々下がってきているという現状があります。

例えば、今年度分では43.2%でした。令和2年度あたりから50%を切って減少傾向にあります。

一方で、町債は今後増加傾向にあるのではないのでしょうか。税収の割合を一定に維持していくことの意識として、歳入に見合った歳出を図るということは適正かつ健全な財政運営の基本と言えます。最小の予算で、最大の効果を、とおっしゃる町長の言葉もありますし、数字の上では、次年度の開成町は積極予算と言えるのではないのでしょうか。

この新年度予算を組むに当たり、このような積極予算とすることの判断をどう考えられたのか、町長の覚悟のようなものをお聞かせいただけたらと思います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

一部感覚論的のような話になってしまうかもしれないのですが、確かに金額的には、過去最大規模ではありますけれども、繰り返し申し上げておりますとおり、例えば扶助費の増加等によって、いわゆる経常支出が増える、要は自由に使えるという表現で、平たく言うとよろしいのかと思うのですが、お金の余地がどんどん狭まっているということを考えますと、実質的には積極的な予算なのかもしれないのですが、感覚的には、そこまで我々、開成町は積極的に予算を組んでいるのだぞという意識みたいなものは、そこまではありません。

だから強いて言いますと、また先ほど来の話に戻ってしまうのですが、例えば議論としまして、駅前通り線、南部第3、もちろんこれはまだに認可を得ていませんけれども、足柄産業集積ビレッジ構想で担当しているのは都市整備課、都市計画課でマンパワー的にも人数一緒、予算も相応にかかりますというときに、3つを一遍に進めるのかどうかというところには議論はありました。結果的には3つとも今までのペースで一生懸命やっっていこうということになったのですが、それらは、例えば先般の一般質問でもありましたけれども、いろいろな理由はありますし、幾らでも御説明できるのですが、現実的に令和6年は人口が減りましたと。町制施行以来、初めて減りましたという現実も踏まえて、町としては、これらの事業を中長期的に見た、たゆまぬ発展というものにつなげていくために、間断なく、引き続き継続して力を入れていこうという決定をしました。その1点においては、積極的な姿勢で、まちづくりに取り組んでいこうということは、この予算にもコメントさせていただいたとは言えると思います。

○議長（山本研一）

ほかにいかがですか。

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

別の質問になりますけれども、予算編成での基本目標への歩の方向性について伺います。

町長は、10のワーキンググループを設置したということは以前からおっしゃられています。いずれも町長が数ある行政課題の中でも、これとはみなして10に収

めたものであります。

予算編成を前にして、そのワーキンググループ会議が開かれ、検討され、予算に反映されているのかどうか伺います。

○議長（山本研一）

参事兼企画政策課長。

○参事兼企画政策課長（岩本浩二）

お答えをいたします。基本的に組織目標として、ワーキンググループ、町長の131のビジョンから拾って、10のワーキンググループを作ったということです。当然進捗状況様々ございますが、予算に反映できるところまで協議が進んだものについては、それぞれ令和7年度、新年度の予算に反映していると認識をさせていただきます。

○議長（山本研一）

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

そのうち先日の同僚議員の一般質問の中の御答弁でもありました、複合施設についてというのが町民の関心が強いところではありますが、今年度、令和6年度の予算のやはり趣旨説明のときに、予算に反映されていないのではという質問をさせていただいたところ、それは職員の研修、調査のそこに含まれているのだという御答弁がありました。今年度もそのように含まれているということでしょうか。

○議長（山本研一）

参事兼総務課長。

○参事兼総務課長（山口哲也）

それでは、清水議員の御質問にお答えいたします。おっしゃるとおりで、令和7年度も、先進地域等の施設職員が学ぶための研修費というものをふんだんに盛っておりますので、令和6年度と同様に措置をしているところでございます。

○議長（山本研一）

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

額が変わっていないというか、少し微減というところだったので気になってこちらも質問させていただきました。

ワーキンググループというのは、課をまたいだ横断的な人員配置がされるものというところで、縦割り行政ではなく横断的なものをよしとしてのところと伺っています。

また、この予算案の性格上、趣旨説明も総合計画も項目ごとにはっきりとどの課が担当しているかが分かるものとなっています。各課が各事業を総合計画にのっかって、基本目標に想定を進めていくといいましても、ここを目指してという役場の中で1つの軸となる方向性はあったのかということをお伺いします。

例えば、全ての課の全ての事業について、これを実施することでどう子どもの笑

顔につながるのか、またはどう人口2万人につながるのか。「田舎モダン」の魅力につながるのか、そのような町が掲げる指標、全ての事業が向かう指標は、町長から各課に示されたのか伺います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

考え方としては、反映されているものと思います。岩本課長からもお話があったとおり、町長ビジョンという形で131の項目を取り組みたいこと、取り組むべきことということで挙げさせていただきました。それを踏まえて、総合計画もしくはこの先般の教育振興基本計画、環境計画、子ども・子育て計画、あとは令和7年度予算等にも反映し、全部ではないのですが、時間軸、単年度予算なら令和7年度にできること。総合計画であれば、前期であれば向こう4年間にできることも想定されることという時間の兼ね合いはありますけれども、それぞれ反映していただいたと。

目標とか、KPIとかというイメージかもしれないのですが、ことに関しましては、総合計画であればそれぞれの項目ごとの目標という形で予算編成においては、もちろんそこまでこれをやると、人口とか、幸福度とかを全て数値化しているわけではありませんが、考え方として、そこにつながるものとして、事業並びに事業の予算額ということを決めたプロセスにあるとは認識しています。

○議長（山本研一）

石田議員、よろしいですか。

9番、佐々木議員。

○9番（佐々木 昇）

9番、佐々木昇です。ページ5ページ、誰もが自分らしく輝くまち、についてちょっと細かいかもしれませんが、お伺いします。

誰もが生涯にわたって文化芸術やスポーツなどに親しめるまちづくりを進めるとございますけれども、来年度スポーツ関係で、新たな取組も示されて、これはとても評価させていただきたいのですけれども、そういった中で、現在、スポーツは、する、見る、支える、最近では知るといったようなことも含まれてきているようですけれども、こういったことをどのように考えて、スポーツに関する取組、予算編成について検討されたのかお伺いしたいと思います。

○議長（山本研一）

生涯学習課長。

○生涯学習課長（田代孝和）

ただいまの議員の御質問にお答えいたします。まず評価いただきありがとうございます。

今、スポーツにおきましては、する、見る、知るだとか、お話がございましたが、まず参加するというところの切り口が、町において大切な部分かなと思っております。

す。その中で特にパークゴルフに関しては、利用者が当然開設したときには開成町にしかなかった。近隣では開成町しかなかったものなので、今、近隣自治体にもたくさんある状態。その中で利用者が当然、ほかにも行くので減っていると。そこで開成の水辺スポーツ公園、パークゴルフ場に集めて、また水辺スポーツ公園のすばらしさを知っていただく。これも知るになるのかと思うのですが、こういったもの、あと新たに始めるものとして、マラソン大会出場と、こういったものに関しては、開成町ではなかなかマラソン大会ができる環境がないので、うまく近隣の自治体のものを活用して参加してもらおうといったような、ちょっとアイデアを出しながらやっていくという状況で今回予算を計上させていただいてございます。

以上です。

○議長（山本研一）

9番、佐々木議員。

○9番（佐々木 昇）

ありがとうございます。その辺の兼ね合い、非常に難しいと思いますけれども、やはり誰もが親しめるというところが私は非常に大事だと思いますので、これはスポーツと同様に、文化・芸術部門にも同じようなことが考えられると思うのですが、来年度中に詳細な取組を検討されている事業もこの辺りあると思いますけれども、ぜひその辺り、こういったことも念頭に入れられながら検討していただきたいと思いますけれども、町の考えをお伺いします。

○議長（山本研一）

教育長。

○教育長（石塚智久）

それでは今の御質問についてお答えします。近年ですけれども、生涯学習の事業の対象が、どちらかというところと大人よりも子ども、文化的なものよりもスポーツに偏っている傾向にあると認識しておりました。そのことをもとに、令和7年度は、キーワードとして、老若男女、そしてバランスということで、多くの方が生涯学習の授業に参加できるように、事業の見直しを行いながら、よりよい事業を増やしていこうと、教育委員会が生涯学習課で取組を考えておりますので、お伝えしておきます。

以上です。

○議長（山本研一）

ほかに質疑ございませんか。

2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

2番、吉田です。町長が、教育長も含めて、これからの異文化交流について外国人講師を増員する。それからそういうものに力を入れていくということは非常に私もいいことだと思っております。

ただ、やはりその中で基本的には日本人、国語の力が、やはり生徒・児童、生きる力が非常のためにも、そういうもとの教育というのが非常に大事だなと思ってお

ります。その中で、やはり、そういう外国語の講師を増員して、しっかりとそういう交流し、語学力を高めていくというのは大いに結構だと思いますけれども、そういった中で、基本的に国語の力、また先般、一般質問にもありましたけれども、日本の歴史とか、開成町の歴史云々をしっかりと改めて身につけることに対して、ふだん学習指導要領の中でもしっかりとそういうこと対応しているということは承知しておりますけれども、その中であえて言わせていただくのは、そういうことにしっかりともう一度力を入れるということに対して、お伺いいかがでしょうか。

○議長（山本研一）

教育長。

○教育長（石塚智久）

それではただいまの御質問にお答えしたいと思います。吉田議員の御意見、率直に私の感想を申し上げますと、私も全くの同意見でございます。英語教育に力を入れるといいますのは、やはりグローバルコミュニケーションのツールとして、やはり英語は有効であり、これからも必要だと考えます。あくまでもコミュニケーションツールとしての英語と私は捉えております。その中で我々が、我々と言うとあれですね。日本語で主に会話をする者にとって、思考する場面、物事を考えるときというのは、日本語で考えますので、やはり日本語、国語教育というのは、英語と外国語と並んでとても重要な部分だと考えております。

国語教育を決しておろそかにすることではなくて、国語教育にしっかりと力を入れて充実させるというのは当然のことで、その上にさらに外国語教育をコミュニケーションのツールとして、グローバルコミュニケーションツールとして英語教育にも力を入れると入れていくという、そういう考えでおります。

以上です。

○議長（山本研一）

2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

2番、吉田です。ありがとうございます。そのような形で方向性しっかりと認識させていただきましたけれども、やはり小学生においても、これは中学生の外国人講師になっておりますけれども、やはり小学生も英語を学校でしたら、いろいろ保護者の方に聞くと、帰ってきてすぐにお母さんお父さんに英語で何か質問したり答えたりするそうです。それは非常にいいことだなと思っているし、また中学生があじさいまつりとか、いろいろなお祭りの中で、外国人と交流することがあります。やはりそういう子たちにお話を聞くと、普通の挨拶はしっかりとできるそうですけれども、先ほど言った、今はどちらかというと、これはちょっと偏見かもしれませんが、日本の歴史、例えば開成町近辺のいろいろなそういうものに対して、しっかりと調べてから来るということで、そういう質問を受けるとなかなか答えることができなかつたというのも実際に聞いております。やはりそういう意味においても、しっかりとそういうのを頭に入るような、児童・生徒にそういう教育も必要なのか

ということで御質問させていただきましたので、これからもしっかりとそういうこととお願いしたいと思います。

○議長（山本研一）

答弁よろしいですか。

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

10番、山下純夫です。全体の予算についての考え方について、もう一度確認したいことがございます。

先ほど同僚議員からも町税と、それから起債等の比率等々の話が出ましたが、負担の平準化ということを見ると、出来上がったインフラを目当てに、将来転入してくる方にも御負担いただくということも視野に入れるならば、調査が積み上がっていくところ、ある程度までは共有すべきものかなと個人的には考えておりますが。

一方で、制度ができて以来、初めて2025年は、臨財債が使われない、ゼロになったということで、頑張っって持ってこようと思えば、国からこれまで以上に引っ張ってくれる予算があるのではないかなと思います。

くしくも17区の国会議員が2人になったということで、そこも上手いこと使っってという失礼ですが、そこら辺も含めて、今までできなかったものをあえてということで国から引っ張ってきた予算で実現できたものというのがあれば、御回答いただければと思います。

○議長（山本研一）

財務課副主幹。

○財務課財政企画兼財政調整班長（永松功次）

財務課の永松です。ただいまの質問にお答えさせていただきます。

議員のおっしゃるとおり、今年度につきましては臨財債がゼロということでして、これにつきましては国の税金で、国税の方の収入は非常に好調だということで普通交付税について原則どおり現金で交付されるということでございますので、特段それとは別で、国庫補助金ですとか、取れるものについては取っってまいりたいと考えております。

また、町債の調査委の発行につきましてですけれども、基本的に議員のおっしゃるとおり、将来、そういった施設を使う方に一部御負担いただくという考えのもとに町債を発行してございます。

それに加えて、近年、補助金に変わっってという形になりますけれども、今年度に交付税措置をするので起債をしてくださいということで、国から新制度をどんどん追加されてまいりまして、積極的に起債を使っっていくといっっているというような側面もございまして、ですので、将来的な公債費負担というのはどうしても増えているというのが、ここ数年のトレンドではございましてけれども、それに備えて財政調整基金を繰り積み立てているというような状況もございまして、そういったところはバランスを保ちながら進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（山本研一）

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

先ほど来、町長はなかなか扶助費等々で、どうしても出すべきものがあって、自由になる部分が少ないというような趣旨の御答弁もあったと思うのですが、今の御答弁では、今後も国の交付金、補助金等々は意欲的に取りにいくという理解をしたのですが、それでよろしいでしょうか。

○議長（山本研一）

財務課副主幹。

○財務課財政企画兼財政調整班長（永松功次）

財務課の永松です。お答えいたします。おっしゃるとおり、国が出すものについては積極的に取りにいきたいと考えております。

以上です。

○議長（山本研一）

ほかに質疑はございませんか。

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

基本目標に向かって事業の予算設定をする上での体制について伺います。こちらは、3ページの1、未来を担うこどもを育むまちの内容とその詳細を受けての質問になります。特に新規事業については、予算編成方針にも、財源及び時間、人員を確保した上で予算要求をすることとあります。そのような方針が示される中、特に子どもに関する事業の数が目立って、7年度は増えていまして、事業数だけで見ると倍増に近いようなものです。

この1、未来を担うこどもを育むまちを重点項目として、こども誰でも通園制度という、先ほど同僚議員からちょっと懸念のような気持ちを持っての質問かと聞きましたけれども、そちらも現実では保育士の処遇改善や、なり手不足の話も全国的な話としては、耳にするわけです。この町内外の体制について、方針どおり予算編成上担当者及びその人員が確保されての予算編成なのか伺います。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

清水議員の御質問にお答えいたします。これはもう毎回答弁させていただいているのですが、こちら側の描いている体制にならないというのが現実で、過日の答弁にもありましたとおり、例えば、7年度においても、細かく言えば8人内定を出したところ、2人しか来ないとか、そういう状況が続いていますし、昨今の子育て関係の制度等を利用する。これはいいことですが、職員も非常に多くなっているという中でいくと、正直議員の懸念されている体制どうなのだとはいえ、なかなか

難しいというか、自信があって大丈夫ですというのは、言える状況ではないと思いますが、しかし、やはりこれは何とかしていかなければいけないという形で、7年度からではないですけども、既にやっていますけども、その採用等も、通年を通じて、要は随時募集をかけて、頻度を上げて、採用の作業をしていったりですか、アウトソーシングできるものは、アウトソーシングするのですとか、そういう状況で乗り切っていきたいなと考えてございます。

○議長（山本研一）

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

そのこども課の新規事業が多いですけれども、新規事業であっても、ほとんどしっかりと国や県の交付金を取りにしているというのが予算表から伺いました。

国も異次元の子ども政策という報道もありましたので交付対象が増えたのかもしれませんが、そちらは評価しております。

ただ、人員や財源が限られるので、そこに注力するなら適切な人員配置が必要と思ひ、質問させていただきました。

また、先ほど町長も触れていましたが、この開成町で本当に必要な事業なのか、マーケティング分析に基づいて取捨選択することもまた必要です。そうした分析や、またふだんから県などと連携や折衝を図り、連絡が取りやすい関係性を築くような情報を取りやすい関係性を築くような、そのような促し、また機運の醸成というのは町長は意識されていらっしゃるのでしょうか。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

まず開成町にとって必要かどうかというマーケティング分析ということに関しましては、客観的な数字を見る限り、例えば開成町お住まいで町外の保育施設を御利用されている方、もしくは4月のときは、待機はないけれども、以降は自主的には待機希望に、希望にかなえられないという方がいらっしゃる、あとは今後の開成町における各年齢層別の人口の推移の見込み等からしますと、必要であるとは考えております。

また、県等とのいわゆる情報とか課題の共有等に関しましては、もちろん担当課が一義的には窓口にはなりますけれども、私自身も民間事業者も含めてなると思うのですけれども、開成町の保育環境の一層の充実に向けて、そういった意識も高く、自分としては努めておるつもりでもありますし、今後も引き続き課題意識を持って行動してまいりたいと思ひます。

○議長（山本研一）

お伺いします。まだ質問、この後考えておられる方、ちょっと挙手していただいてよろしいでしょうか。2時間近くたちますけど、3名ということなので、継続してよろしいですか。行政側もよろしいでしょうか。

(「異議なし」という者多数)

○議長(山本研一)

では、質疑どうぞ。

1番、清水議員。

○1番(清水友紀)

7ページでした。7、活力あふれる産業と地域の魅力を生かしたにぎわいのあるまち。こちら農業、商工業のことが書いてありますけれども、農業については、優良農地を保全したいという方針は、こちらの趣旨説明や予算から伝わりますが、担当課のお話を伺ったり、このふれあい農園のここの趣旨説明にある話を拝読しますと、町としての取組というよりは、担当課の取組という印象が否めません。

農地、農業維持については、町として真剣に取り組むことだと思ひまして、こちらを伺います。

広域での農業についての協議や取組、また県への相談が足りないのではと感じられるところがございます。

近隣では農地維持や農業活性化に悩むのは開成町だけではございませんし、首長の中でも農業に関わる御家庭などは山神町長だけではございません。この待ったなしの農地、農業維持について、近隣市町や県と一層踏み込んだ協議が必要ではと思ひますが、お考えを伺います。

○議長(山本研一)

町長。

○町長(山神 裕)

例えばふれあい農園に関して、課の事業で、町の事業ではないというところはちょっと違和感を覚えるのですが、これは遡れば、清水議員からの御質問等々も踏まえて、私から、令和だから、今年度中に6年度中に1個やろうということで、みんなで意思統一を図って進めてまいった事業でありますので、紛れもなく町の事業であります。

多分、議員おっしゃるのは、もうちょっと課題をもっと課題意識を高くおっしゃるように、県、国等々も連携しながら取り組まなければいけないぐらいの課題であると。ふれあい農園は、課が、そういった意味ではそういった視点ではなくやっていると印象をお持ちと承りますけれども、今回の総合計画並びに令和7年度予算、具体的には、今年度中、2か年かけて地域計画をしっかりと策定して10年後を視野に入れながら、どこで誰が何を作っていくのか、担い手がどのぐらい必要となって、担い手の育成、発掘がどれぐらい必要になってくるかとか、あとはもちろんできるだけ付加価値が高いものを作る。そこら辺も改めて整理していく方向であることとか、あとは弥一芋をはじめ、開成町ブランド強化ということも兼ねまして、補助金制度というものを令和6年度今年度創設したりとか、取組としてはしっかりとやっているような自負ではあります。

そこに県という関わりについては、例えば圃場整備とか、いろいろな県、国が持

っている補助金での農道含めたいろいろな整備であるとか、あとは現在もそういう中間管理機構等も含め、関わりが実際全くないわけではない。県ともしっかりと情報共有連携を図りながら、農業という課題に対して取り組んでいるとは考えております。

○議長（山本研一）

1 番、清水議員。

○1 番（清水友紀）

ふれあい農園の話は、確かに一般質問や様々提案させていただいたり、質問させていただいた中で、先日も担当課長から遊休農地の利用を兼ねて、そして行く行くは新規就農者も獲得も目指してというところも聞いていますので、確かに町の事業ということで失礼いたしました。

課題を大きく捉えてというところは、町長のおっしゃるとおりで、やはり一層踏み込んだ協議を求めるところです。

また、地域経済というところの文脈では、3大イベントで関係人口、交流人口の増加という記載がございます。農業や商工振興活性化について、こちら3大イベントの記載がこの趣旨説明にあるところで、ややイベントに偏ったところが大きいのではという印象がございます。

日常的な地域内経済循環については、活力あふれるという感じがしますでしょうか。商工振興費全体についても300万円減っておりました。この町の商工振興活性化について、詳細質問を前に町長のお考えを伺いたいと思いますが、お願いいたします。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

先ほどの答弁とも一部趣旨としては重なりますけども、どうしても限られた紙面の中でという、文字数の中でことでこの3大祭を挙げさせていただきました。

まず、今年度は、あじさいまつりが、来場者が過去最高に最多になりました。もろもろ民間事業者さんの御協力、メディアの効果、我々もSNS等で発信を大分強化したところとかが結果に表れたかなと、とても前向きに捉えて、成功したと。この成功を次につなげていくという意識であります。反省することも大事なのですが、成功したことは、もう素直に喜んで、前向きに次に取り組んでいきたいなという思いであります。

それでこの3大イベントにどうしても集中してしまっているのではないかということに関しましては、決してそのようなこともないとは考えております。もちろん婦人会の皆さんとか、瀬戸屋敷クラブの皆さんとか、あと農業従事者の皆さんとか、それぞれの御協力があって、初めてではあるのですけれども、インバウンドも来年度もしっかりとお越しいただけるようになっておりますし、そこへの町民の皆さんの参加というの、対象が広がるということも見込まれておりますので、この3大

イベントに限らず、しっかりと取り組んでいきたいなと思います。

予算がちょっと減ったと、表面的に減ったということに関しましては、おかげさまでと申しませうか。令和6年度のあじさいまつりでも収入が多かったと。具体的な駐車場とかの御利用も増えましたし、値上げというの、物価高相応にさせていただいたところもありまして、それが主因であります。よって、理想はこれ実行委員会方式でもやっておりますし、独立採算、自立できるイベントというのが理想です。でももちろんそれは現実的に可能かという、そんなに生易しいことではないと思うのですけども、そこに理想を掲げているという意味で、町からの令和7年度の予算においては、その分は一部減らしたという格好になっております。

○議長（山本研一）

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

今後、予算やこちら趣旨説明にある駅前通り線の事業ですとか、産業ビレッジのほうで多くの企業が入ってくるということが期待されているわけです。それがまだ先の話とはいえ、やはり今ある商工業、開成町のまちづくりを担っているお店の方々ですとか、そのような方を考えると、やはり町として、担当課はこれから農業のより施策について検討していきたいというお言葉がありましたけれども、販路拡大ですとか、この町のみならず地域の特産物、地域全体で商工業を盛り上げていくようなそうした施策に期待したいと思ひまして、こちらの答弁は結構です。

○議長（山本研一）

2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

2番、吉田です。今、同僚議員からも質問が出たのですが、町長の趣旨説明の中で、商工業、本当に最後のほうに引き続き町民や町内の中小企業等を対象とした補助制度を推進します。と、確かに今までどおり小口の融資とか、あと預託金、それから利子補給等々あり、例年どおりにありますけれども、ちょっと町長から商業に対して7年度の予算の中のシステムの中でしっかりとした言及が少なかったの、ここで町長から、そういうことに対して先ほども同僚議員からありますけれども、本当に町の中小規模事業者、また零細業者も一生懸命やっている。また、いろいろ町のお祭り等々にも参加している。開成町商業振興会の中でやればいいんだよということになると思ひますけれども、町長からもう少しみんなが元気になるような言葉をちょっとお願いしたいと思ひます。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

決して開成町の商工業を軽んじている、軽視しているということはないということとは御理解いただいていると思ひます。その上でちょっと言及が足りないという御指摘に対しましては申し訳なく思ひます。

やはり農業もそうなのですけれども、地域の経済を活性化して回していくには、この農業、商工業の業者の皆さんを支えていくというのは大事であると思います。自分も予算編成のとき改めて考えたのですけども、町の税金でサラリーマンは支援しないのです。だけど、商工業者、農業というのは、なぜ支援すべきなのかといったときには、やはり地域の経済というものを支えていく上での潤滑油であったり、様々なにぎわいの創出であったり、そこに憩い、くつろぎ、交流の場であるとか、そういうようなことがあるからだと思います。もちろんその先に税金を納めていただいて新たな投資をしていくという循環が回って初めて、さらに意義があることだと思うのですけども、よって、申し上げたとおり、商工業の皆さんもしっかりと支援していきたいと思います。

ただ、これは現在の商工会の皆さんもそういう意識を持っていただいていると思うのですけども、やはり町の財政的支援がありきではないという、いわゆる当事者意識を持って一緒に町を具体的に一緒にもうけて、一緒に町を盛り上げていくという気持ちで取り組んでいきたいなと思います。

そして、自分は地域内で経済、お金を回すということをととても大事だと思っています。地域ポイントとか、プレミアム商品券とか、とても意義があると考えております。がしかし、イニシャルコストが、表現はちょっと適切ではないかもしれないのですけれども、びっくりするほど高く、計算していくと、やはりほかの選択肢のほうがいい、もしくはこれはあまりやるに値しないみたいなことも実際、令和6年度とかもありましたので、将来的な課題として地域ポイントとかということはほかの目的も兼ねて、チャレンジはしていきたいと思っております。それがひいては町内飲食店をはじめとした事業者の皆さんの活性化というものにもつながる。とも考えておりますので、ポイントとしますと、そこにどれだけお金をかけられるかということに尽きてしまうといえれば尽きてしまうのですけども、要はまとめますと、商工業者の皆さんもしっかり支えて、共にまちづくり、地域の繁栄に向けて取り組んでいきたいと考えています。

○議長（山本研一）

2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

今強い思いをいただきましたので、皆さん商工業の人も元気づけられると思います。本当に今、商工会の中でも若い人たちが、これからこういうのをしよう、ああしようというのをいろいろ議論しております。また、今、町長が言ったように、両方で一緒に連携し、協力して、少しでもよい方向にというような形のことも考えております。ですから今、町長からしっかりと支援もしていくよということも聞きましたので、これからもまた若い人たちも元気、力をもらって、いろいろな意味で商工業の進行のため一生懸命やっていくと思いますので、これからも支援、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（山本研一）

11番、前田議員。

○11番（前田せつよ）

11番、前田せつよでございます。ページ3、未来を担うこどもを育むまち、先ほど来、町長の重点政策の中の3項目の1つの部分で、この3ページの一番下の行、産後1年以内の子どもを持つ家庭に産後ヘルパーを派遣する事業を開始し、家事・育児の支援を通じて日常生活における負担軽減を図ります。ということで、先ほどの同僚議員からも子育てに関しての政策がかなり手厚く入ってきているというような話もあったわけでございます。私も自分自身も一般質問の中でも様々これに関する一般質問を重ねてきたわけでございますけれども、この産後ケア事業についてのこのフレーズ、またこの先ほど来、町長ほか、同僚議員のやり取りの中で、昨年令和6年4月1日に開設された、こども家庭センターの様々な事案とか、今までの動きを含めた中で、この新規需要に与えた影響等々があるのかないのか、その昨年4月1日のこども家庭センターの設置というのは大変に大きなものであったかと思えますけれども、その辺の影響等々、こども家庭センターがこの予算編成における影響度、特にこの産後ケア事業におけるものについておありになれば、御答弁願います。

○議長（山本研一）

こども課長。

○こども課長（田中美津子）

ただいまの前田議員の御質問にお答えいたします。家庭センターの活動というところで、今年度からスタートしました。予防事業の母子保健の部分と児童福祉法、要対協を含む部分というところで、相談事業、いろいろな家庭の調整や相談、訪問等通しながら、やはり指導だけではなかなか生活を支えることができないというところはやはり動いているのジレンマでもありました。家庭センターの活動を通して住民の生活より深く、より多角的に見させていただくことで、やはり本当に生活の支援が必要だというところでは中で本当に議論されて、何が必要かというところをこども課、家庭センターの中でも毎月いろいろな何度も何度もいろいろな職種と検討会等を重ねる中では、やはりこのヘルパー事業、上の子を預かったり、家の掃除がままならない状況を何とかしてあげたい、あるいは買物に行って、食事を作ることができないなど、本当にいろいろな家庭がありました。その中で何ができるかというところで、まずは産後の一番リスクの高い負担が大きいところを何とかしたいというところで、予算を組んでいただいた形になっております。

○議長（山本研一）

11番、前田議員。

○11番（前田せつよ）

11番、前田せつよでございます。今のこども家庭センターの内容、せっぱ詰まった事例等々が見えてくるような形での御答弁をいただいたわけでございます。ありがとうございます。

私も、この産後ヘルパーのこの事業、それがどうして以前私が一般質問した産後ドゥーラーではなかったのかなど、ことも思うわけですが、その話はこちらに置いておきまして、この産後ヘルパー事業というのは、かなり各自治体で内容について、例えば多子世帯については云々するとか、1年以内と当町ではしておるわけですが、この事業そのものをどのような形態で進めていくかというのは、町のその采配いかんによって、かなり事業内容、支援内容が変わってくると理解しておるところでございます。

今、お話を含めまして、本町における産後ケア事業の中のこのヘルパー事業の派遣、今まであるファミリーサポートセンター事業等々も鑑みながら、お互いに相乗効果のかかるような形の事業展開にさせていただきたいと思うところですが、御所見をお述べいただいたらと存じます。

○議長（山本研一）

こども課長。

○こども課長（田中美津子）

ただいまの御質問にお答えいたします。同じくファミリーサポート事業、似たような事業でございます。それぞれ役割とできる範囲、実際の業務の内容が微妙にかぶる部分、全く違う部分がございます。その辺を両方ともしっかりと相乗効果あるような形で支援を続け、開始し、制度の設計をしていきたいと考えております。

○議長（山本研一）

ほかよろしいですね。

以上で、議案第20号 令和7年度開成町一般会計予算についてから、議案第27号 令和7年度開成町下水道事業会計予算についての提案趣旨説明、総括質疑に係る質疑を終了します。

お諮りします。ただいま議題としております議案第20号から議案第27号までについては、開成町議会委員会条例第5条及び第6条の規定により、議長を除く11人の議員を委員として構成する予算特別委員会を設置し、開成町議会会議規則第38条の規定により、同委員会に付託の上審査したいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」という者多数）

○議長（山本研一）

御異議ないものと認め、議案第20号から議案第27号までについては、11人の委員をもって構成する予算特別委員会を設置し、これに付託の上審査することに決定いたしました。

ここで暫時休憩といたします。

この間に、予算特別委員会の委員長、副委員長を互選し、議長まで御報告願います。

再開を11時20分とします。

午前11時13分

○議長（山本研一）

再開します。

午前 11 時 20 分

○議長（山本研一）

予算特別委員会の委員長、副委員長について、互選の結果報告がありました。

委員長に前田せつよ議員、副委員長に星野洋一議員がそれぞれ決定いたしました。

予算特別委員会は、本日 11 時 35 分から開会いたします。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これにて散会いたします。お疲れさまでした。

午前 11 時 21 分 散会